

## 第2章 長篠地域の現状と課題

### 1 長篠地域の現状

#### (1) 長篠地域の概要

長篠地域は、支所をはじめとする公共施設やJR飯田線本長篠駅、本長篠バスターミナルがあり公共交通機関の結節点として、また、国道151号と国道257号が交わる交通の要衝として、昭和31年の旧鳳来町発足以来鳳来地区の中核をなしています。

支所庁舎は、新城市の支所として鳳来地区での行政機能の中心的役割を担っており、隣接する新城市開発センターは、集会施設として多くの市民に利用されています。

長篠地域は国道151号と国道257号が通っており、車による市内外へのアクセスが良いことから、通勤や買い物などは、市内をはじめ豊川市、豊橋市、浜松市等が生活圏域となっています。

文化面では、「長篠の戦い」に関わる史跡が数多くあり、環境面では、豊川、宇連川が流れ、天竜奥三河国立公園区域に指定されている自然豊かな地域です。

また、隣接する東郷地域に新城ICが開設され観光客は増え、広域的な交通アクセスの向上に伴い企業の進出等も期待されています。

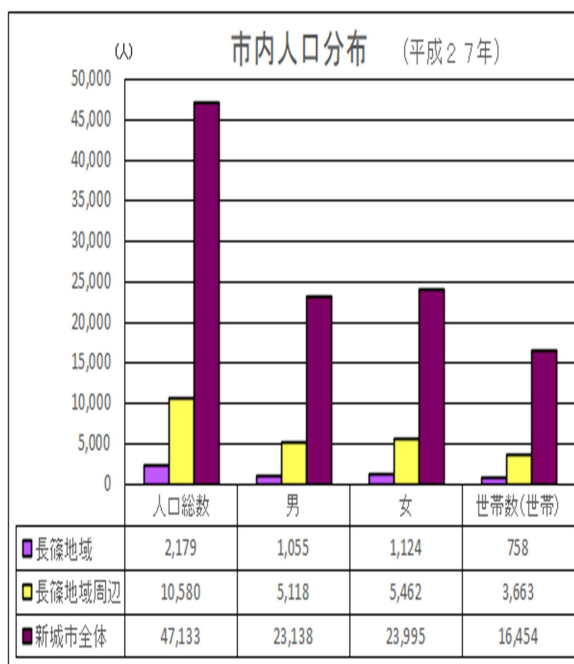
#### (2) 長篠地域等の人口・世帯等の推移

国勢調査や経済センサスから、計画対象区域の長篠地域や長篠地域周辺（長篠地域を除く鳳来地区並びに横川、大海、有海、緑が丘）の人口・世帯・住宅・労働力等について、新城市全体との比較や経年変化から考察を行いました。

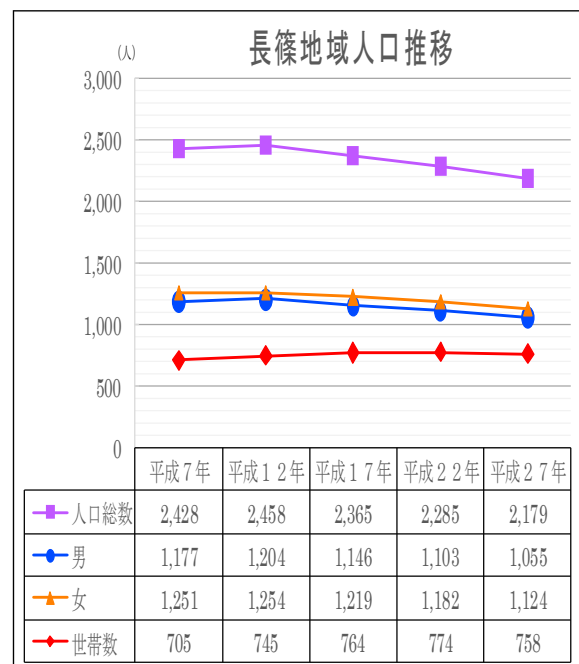
なお、国勢調査の直近の数値（平成27年）を基準として、比較分析しています。

##### ① 人口・世帯数

- ・長篠地域は人口2,179人で市全体の5%、世帯数も758世帯と5%を占めています。
- ・平成7年と比較すると、人口は249人減少し、世帯数は53世帯増加しています。



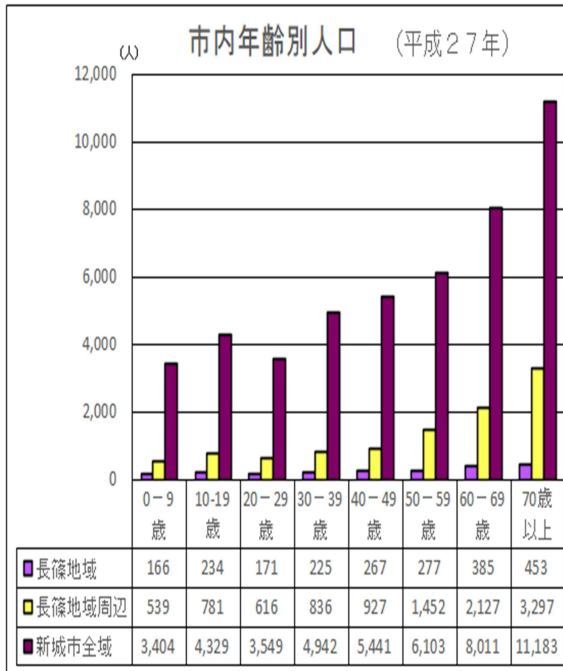
(出典：国勢調査のデータを集計)



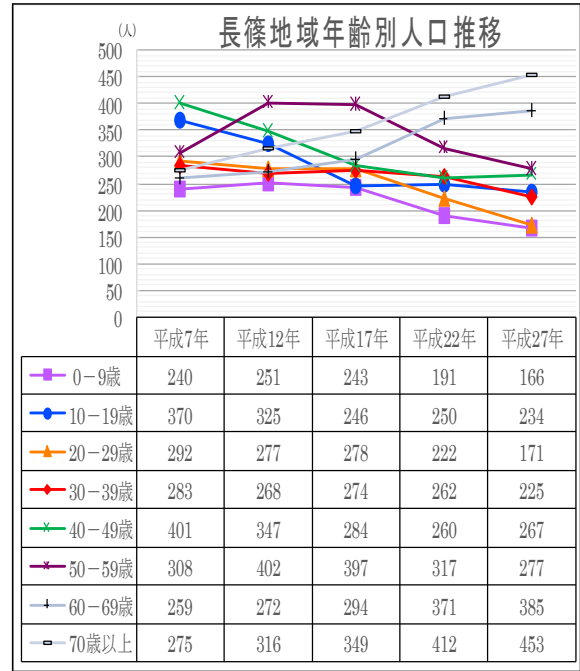
(出典：国勢調査のデータを集計)

## ② 年齢別人口

- 長篠地域の年齢別人口は、平成7年に比べ、20歳以下が210人減少し、60歳以上が304人増加するなど、少子高齢化が進んでいます。



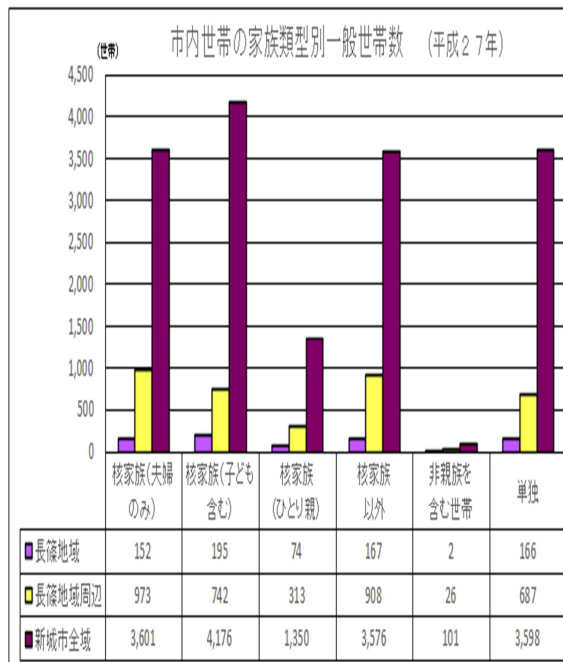
(出典：国勢調査のデータを集計)



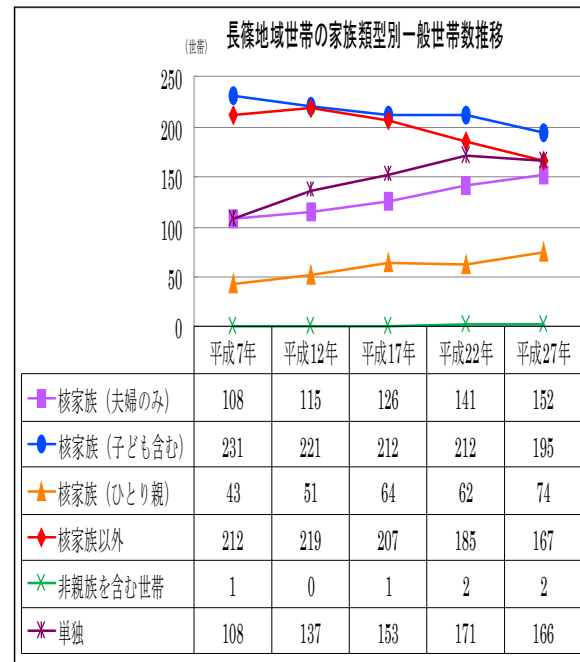
(出典：国勢調査のデータを集計)

## ③ 世帯の家族類型

- 長篠地域の家族類型は、核家族世帯が421世帯、核家族以外の世帯が167世帯、単独世帯が166世帯です。平成7年に比べ、単独世帯58世帯、夫婦のみ世帯が44世帯増加しています。
- 少子化により子育て世帯が減少する一方で、平成7年に比べ、子どもがいる核家族世帯数には変化が見られません。



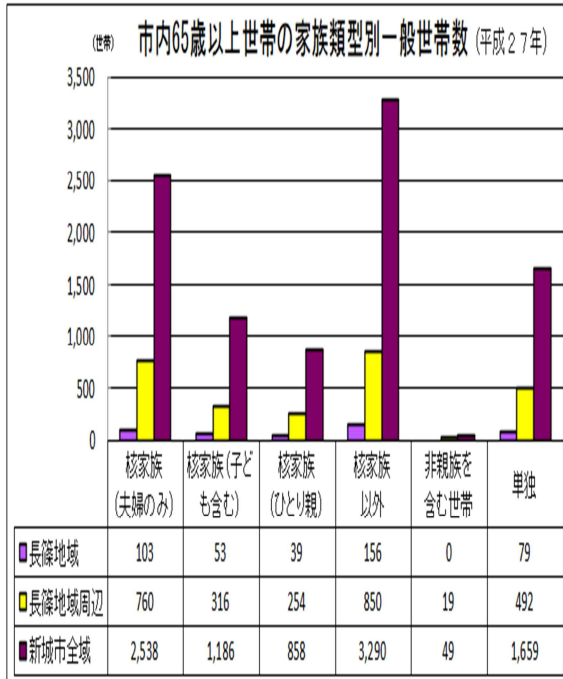
(出典：国勢調査のデータを集計)



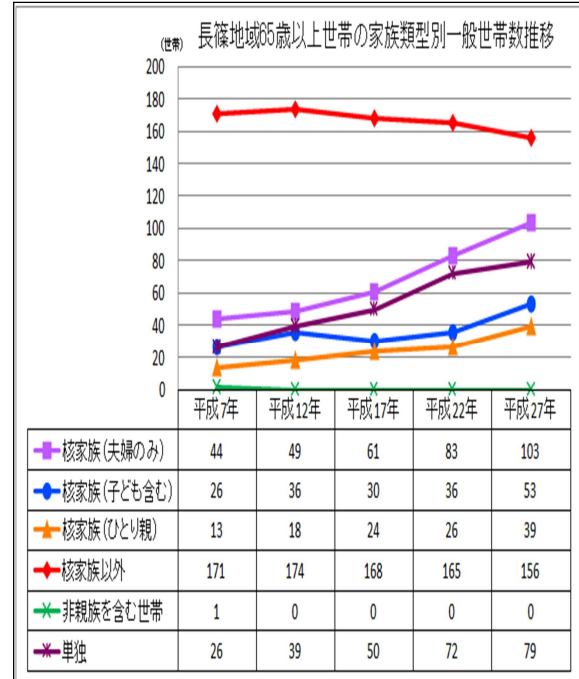
(出典：国勢調査のデータを集計)

#### ④ 高齢者世帯

- ・65歳以上の高齢者がいる世帯を平成7年と比べると、単独世帯が204%増、高齢者の夫婦のみ世帯が134%増と大幅に増加しています。



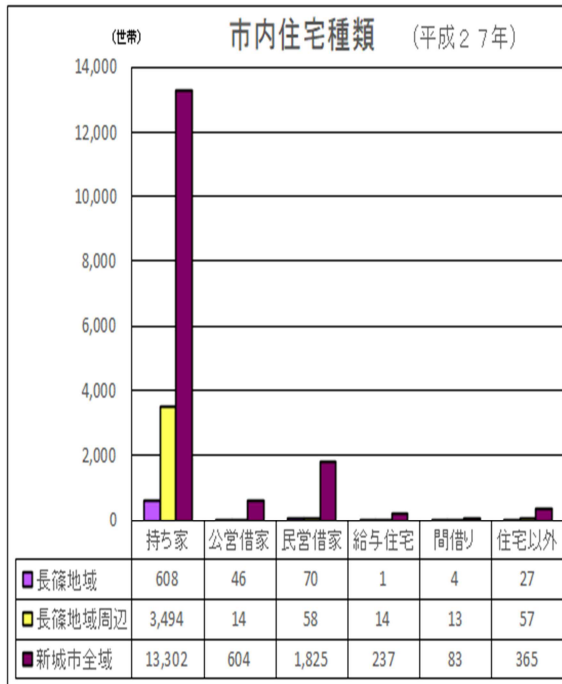
(出典：国勢調査のデータを集計)



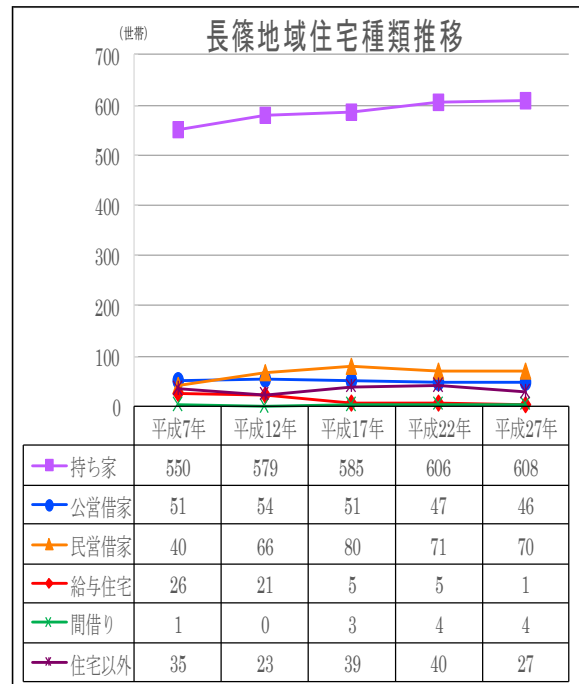
(出典：国勢調査のデータを集計)

#### ⑤ 住宅の種類

- ・長篠地域の住宅の種類としては、持ち家が80%を超えています。平成7年に比べ民間の借家、持ち家が増加しています。



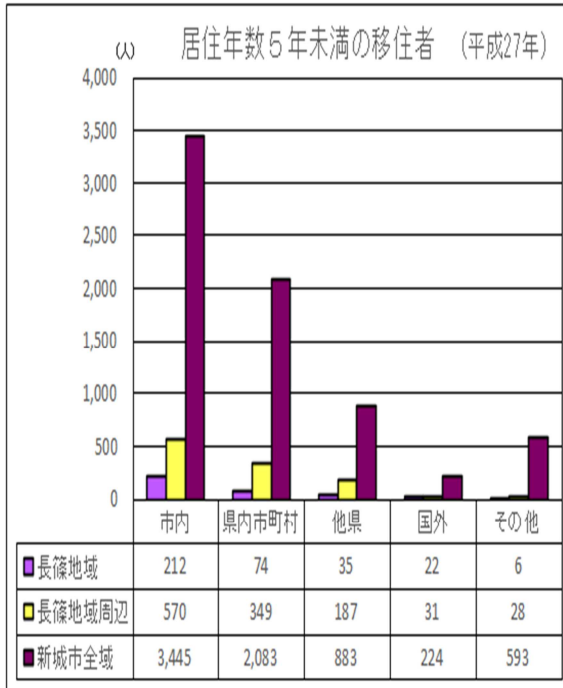
(出典：国勢調査のデータを集計)



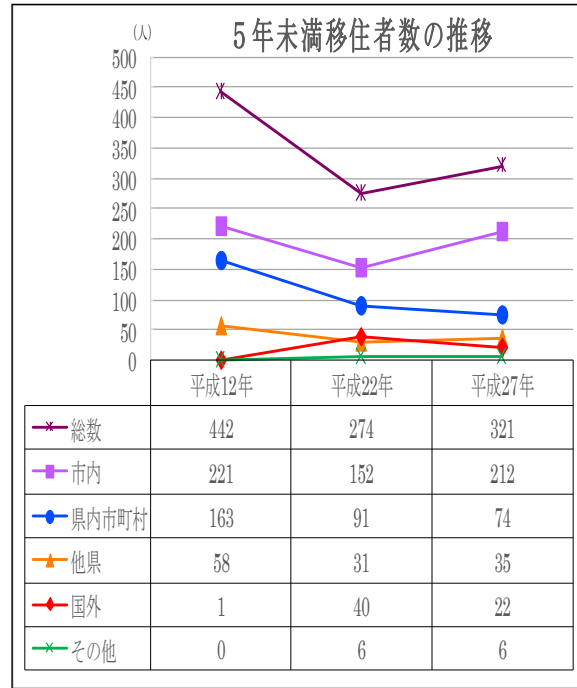
(出典：国勢調査のデータを集計)

### ⑥ 居住5年未満の移住者

- ・居住年数5年未満の市外からの移住者は、平成12年には222人でしたが、平成27年時点では、137人と過去15年間で85人、38%減少しており、県内市町村、他県からの移住者の減少がその要因です。



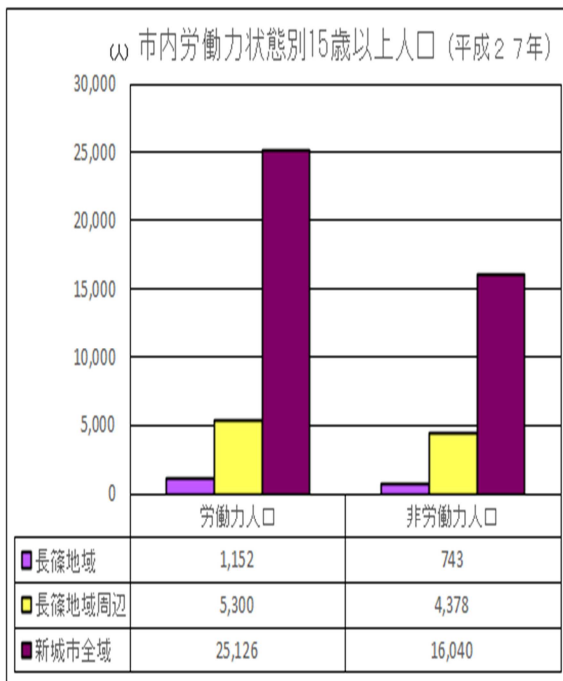
(出典：国勢調査のデータを集計)



(出典：国勢調査のデータを集計)

### ⑦ 労働力人口

- ・長篠地域の15歳以上人口は1,895人ですが、そのうち労働力人口は1,152人(約60%)、非労働力人口は743人(約40%)であり、市全体の比率とほぼ同じですが、平成7年に比べ、労働力人口は185人減少し、非労働力人口は96人増加しています。



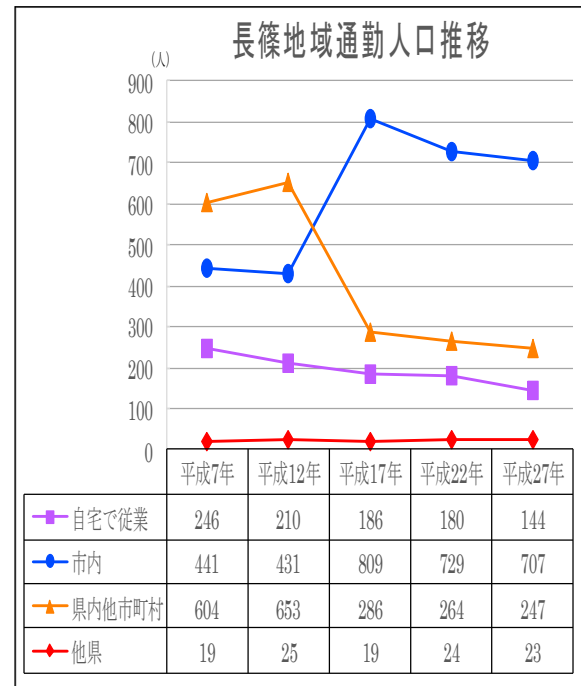
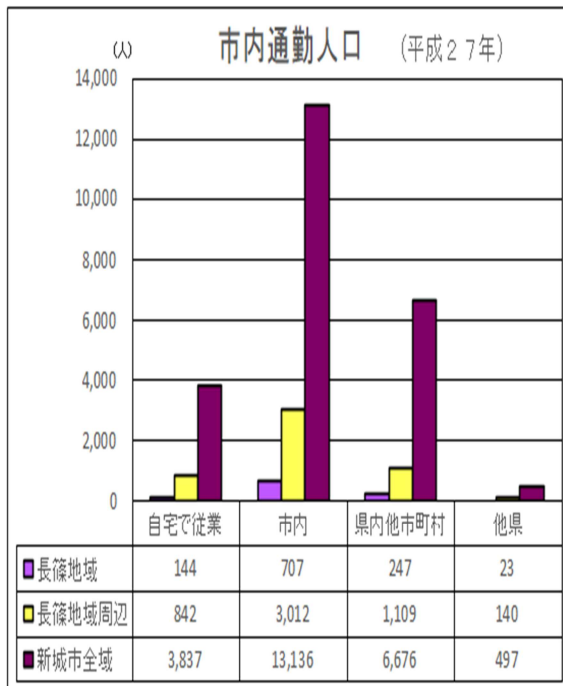
(出典：国勢調査のデータを集計)



(出典：国勢調査のデータを集計)

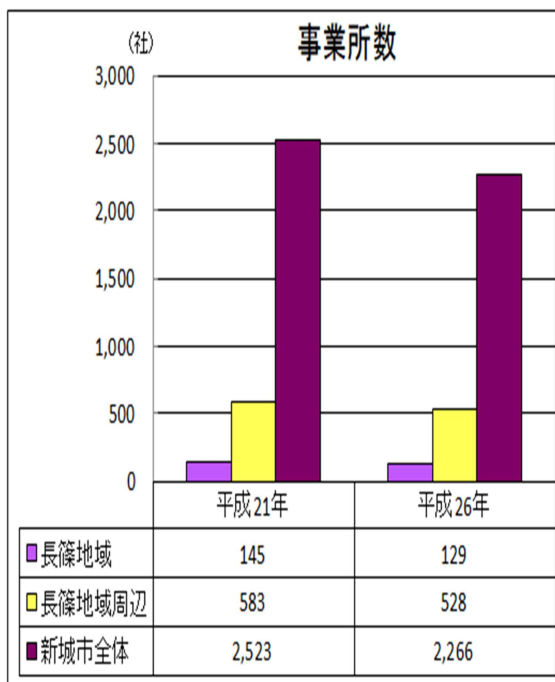
### ⑧ 通勤人口

- ・長篠地域の通勤人口は、自宅で従業する人が144人、市内で従業している人が707人、市外で従業する人は270人であり、市全体と比べると、市内で従業している人の比率が高くなっています。
- ・平成7年と比べると市内で従業している人が266人増加し、市外で従業する人が353人減少しています。
- ・長篠地域の通勤人口の推移を見ると、平成17年に「市内通勤者」の数値が高くなっているのは、合併により市域が広がったことが要因です。



### ⑨ 事業所数

- ・平成26年と平成21年を比べると長篠地域では、事業所が16減っています。



## 2 長篠地域等の住民アンケート結果

### (1) 調査の目的

支所の改築や長篠地域の開発に向けて、現庁舎の利用状況や新庁舎の機能及び生活形態、まちづくりの将来像等について、市民の意向を把握し、幅広く意見を取り入れるためアンケート調査を実施しました。

### (2) アンケート調査の概要

長篠地域住民（長篠西、本郷、内金）と、長篠地域周辺住民（長篠地域を除く鳳来地区並びに横川、大海、有海、緑が丘）を対象に2,000人に対するアンケート調査を郵送にて行いました。

なお、次世代を担う長篠地域に住む10代の中学生以上は全員対象としました。

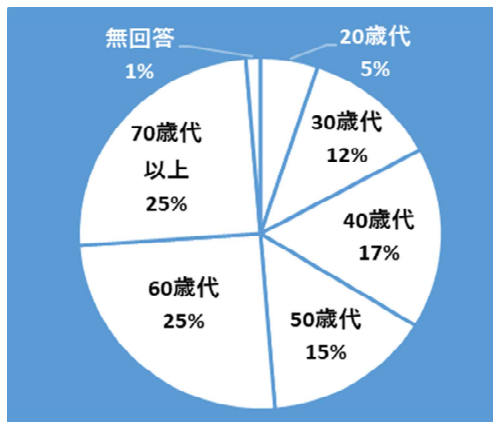
\*調査実施期間 平成30年7月20日～8月7日まで

調査対象	長篠地域	長篠地域周辺	長篠地域の10代	計
配布数	661通	1,150通	189通	2,000通
回収数	234通	290通	45通	569通
回収率	35.4%	25.2%	23.8%	28.5%

### 長篠地域住民アンケート結果より抜粋

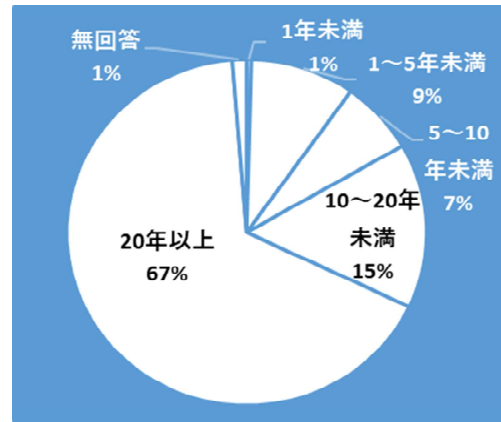
#### ① アンケート回答率（年齢別）

- ・60歳代以上の方の回答が半数を占めています。



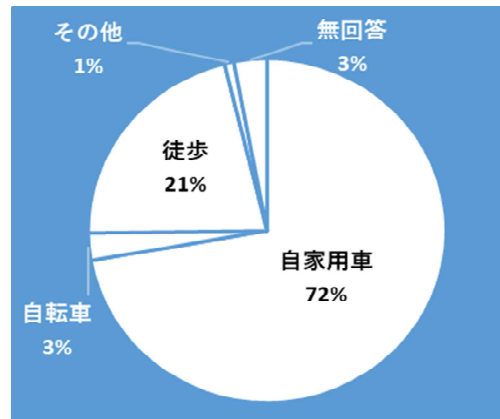
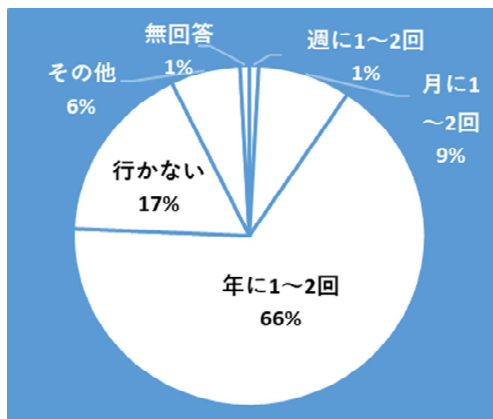
#### ② 居住年数

- ・居住して20年以上の方が67%を占めています。



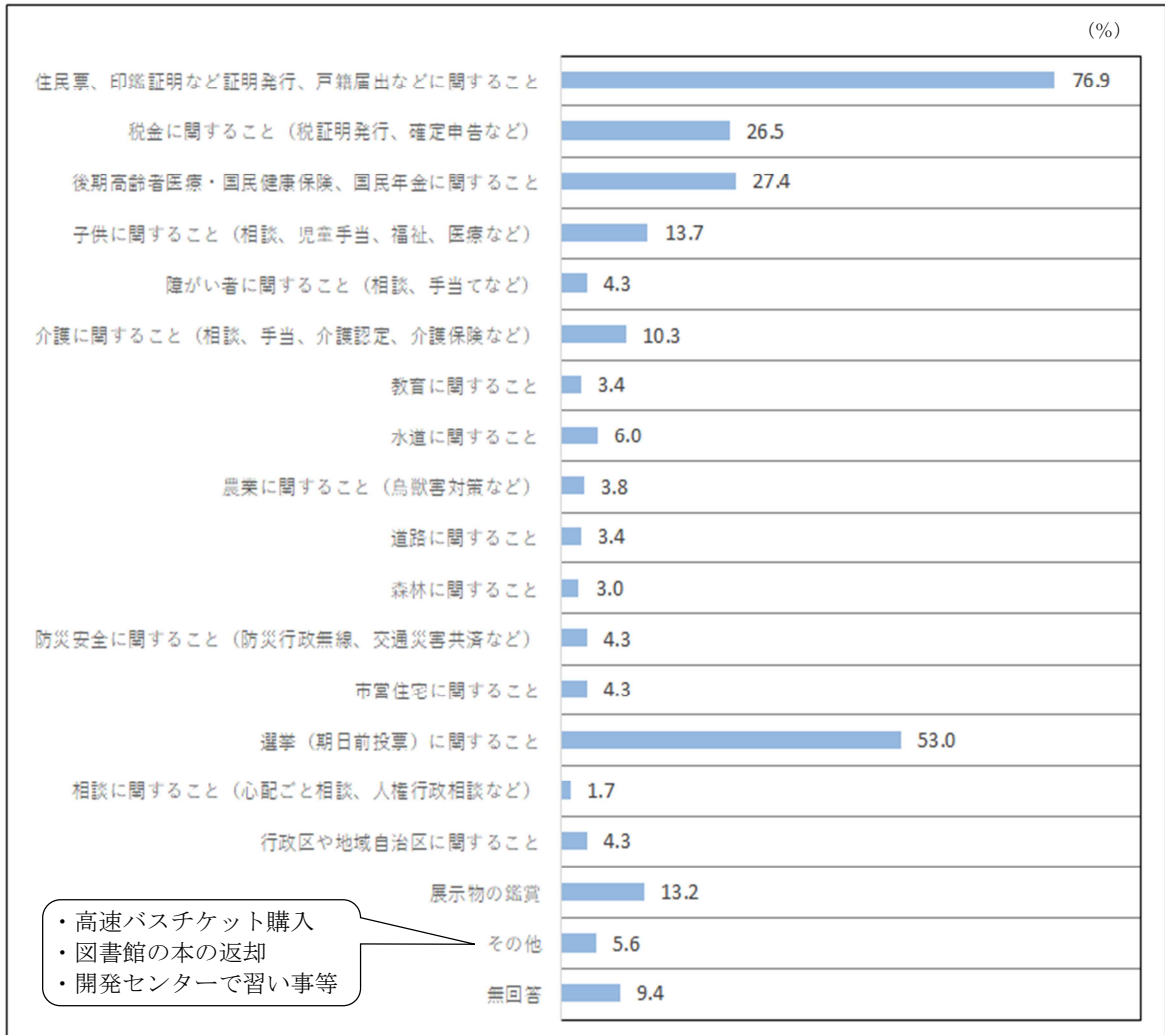
#### ③ 鳳来総合支所を訪れる回数、交通手段

- ・年に1～2回の方が半数以上で、交通手段は7割が自家用車、2割が徒歩や自転車で占めています。



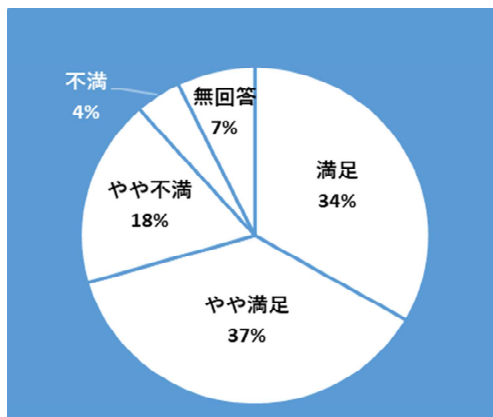
#### ④ 支所を訪れる用件

- ・住民票の写しや印鑑登録証明書などの証明発行、戸籍届出などに関すること、選挙（期日前投票）に関することが高くなっています。
- ・支所でできなくて困った用件は、子どもに関する相談、障がい者に関する相談等となっています。



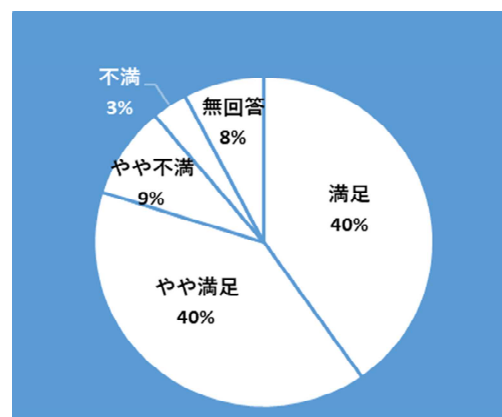
#### ⑤ 支所機能満足度

- ・「満足」、「やや満足」を合わせると7割と満足度が高くなっています。



#### ⑥ 窓口対応満足度

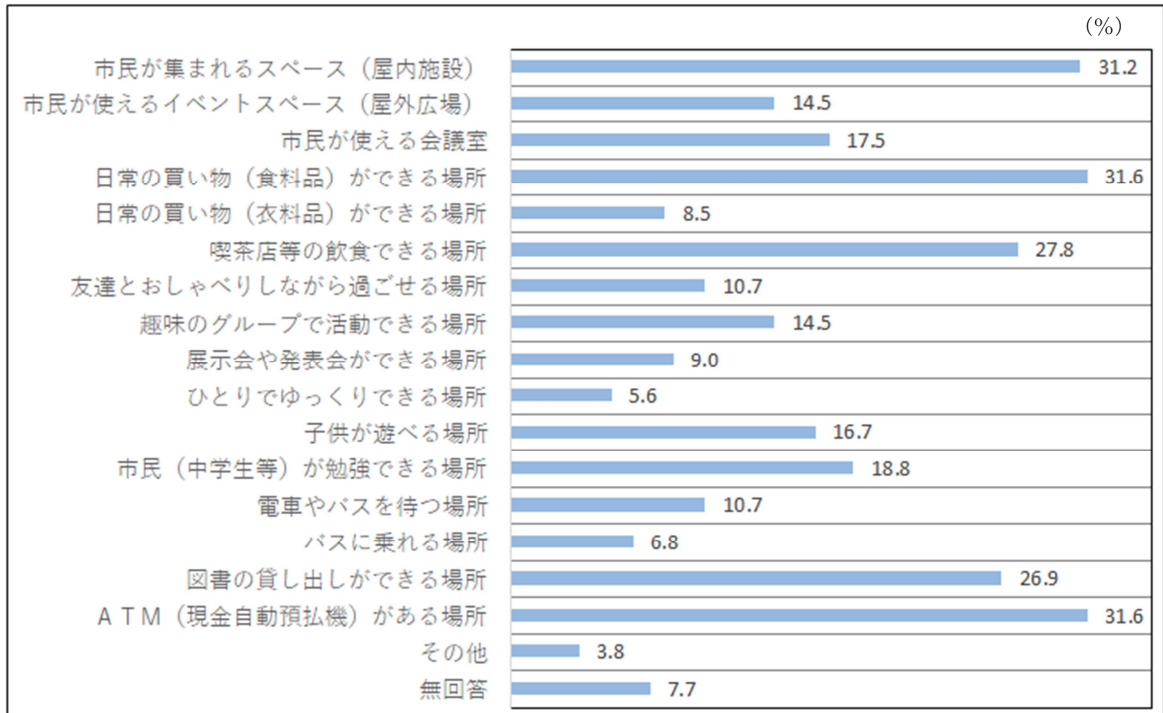
- ・「満足」、「やや満足」を合わせると8割と満足度が高くなっています。





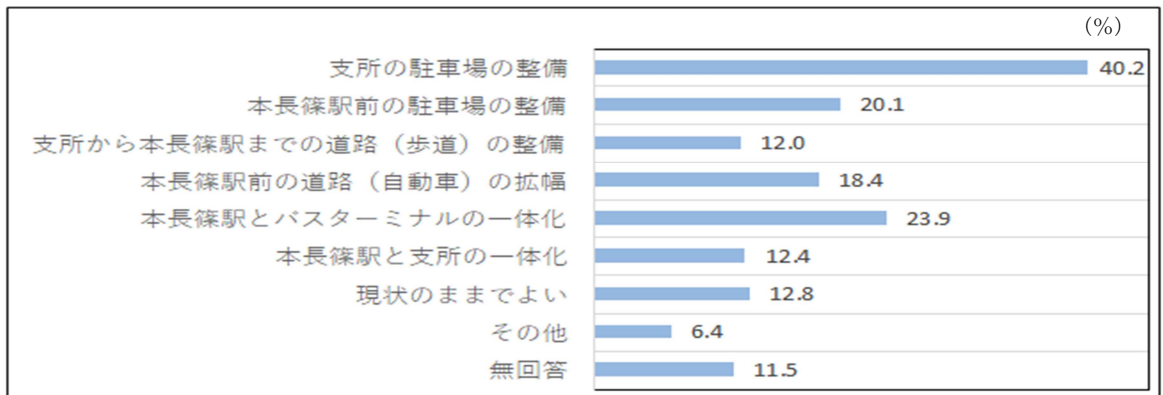
⑦ 支所や支所の敷地内が「どんな場所」としてよいと思いますか。

- ・「日常の買い物（食料品）ができる場所」、「A T Mがある場所」、「市民が集まれるスペース」のニーズが高くなっています。



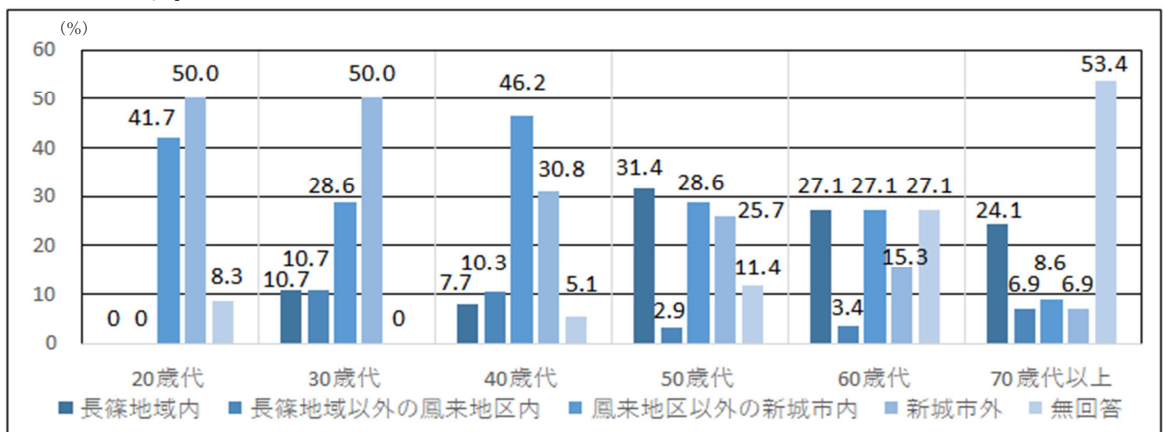
⑧ 長篠地域を鳳来地区の中心核としてどのような整備をしたらよいと思いますか。

- ・「支所の駐車場の整備」が最も高くなっています。



⑨ 働く場所 (年代別)

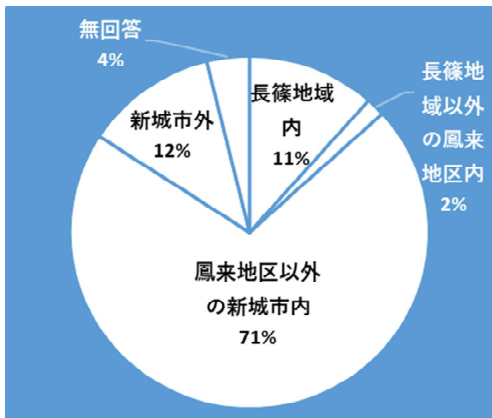
- ・市内での勤務が半数以上。20・30歳代は市外に勤務し、50・60歳代は鳳来地区に勤務しています。





⑩ 食料品を買う場所

- ・ 鳳来地区以外の市内が7割を占めています。

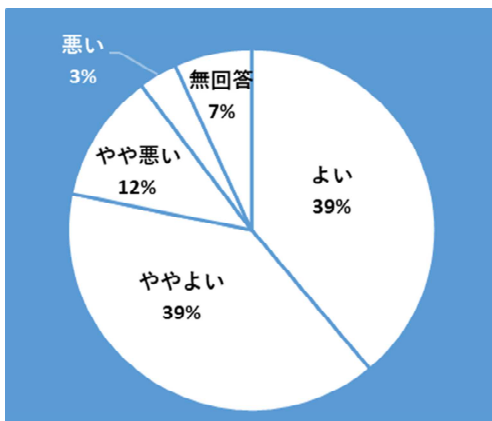


(アンケート自由意見より)

- ・ 買い物の不便さが気になる。スーパーがなく鮮魚や総菜等が十分に手に入らない。野菜は手に入るが、高齢者に優しい店がない。
- ・ 車がないと生活できない現実がある。
- ・ 若い世代も便利に住めるよう、近場で買い物ができたらと思う。

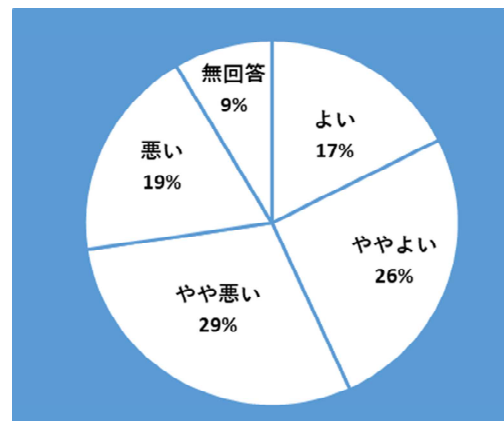
⑪ 長篠地域の住環境

- ・ 住環境は「よい」、「ややよい」が8割を占めています。



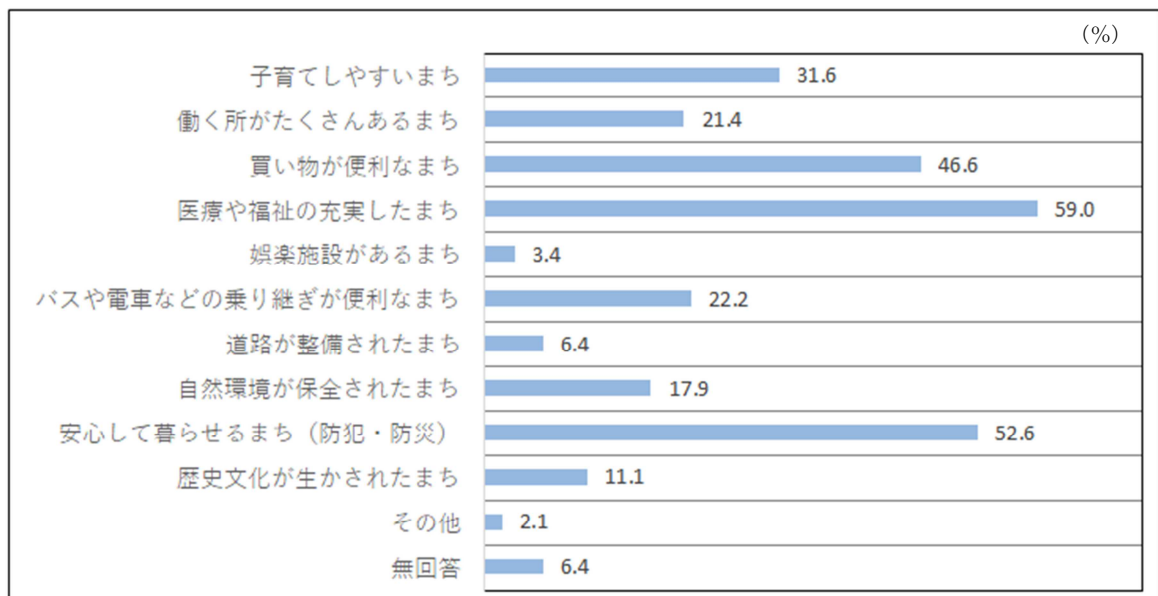
⑫ 公共交通の利便性

- ・ 公共交通の利便性は「悪い」、「やや悪い」が「よい」、「ややよい」を上回っています。



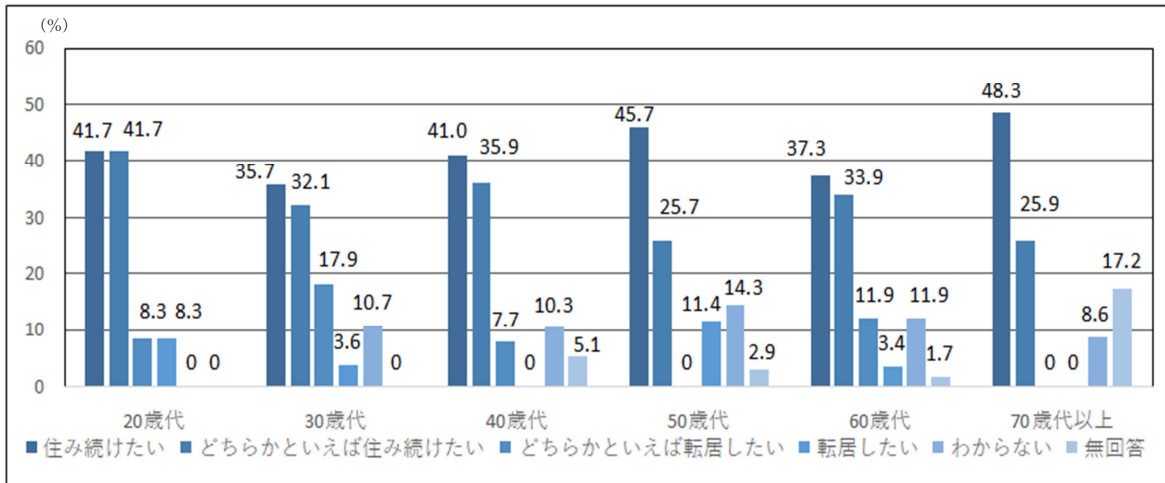
⑬ 長篠地域が「どんなまち」になっていたらよいと思いますか。

- ・ 「医療や福祉の充実したまち」が、高くなっています。



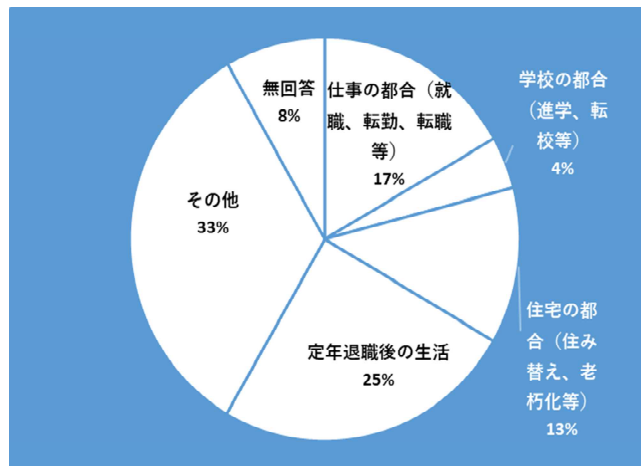
⑭ 今後も長篠地域に住み続けたいですか。

- ・「住み続けたい」、「どちらかといえば住み続けたい」と回答した方が7割を占めています。20歳代も高くなっています。



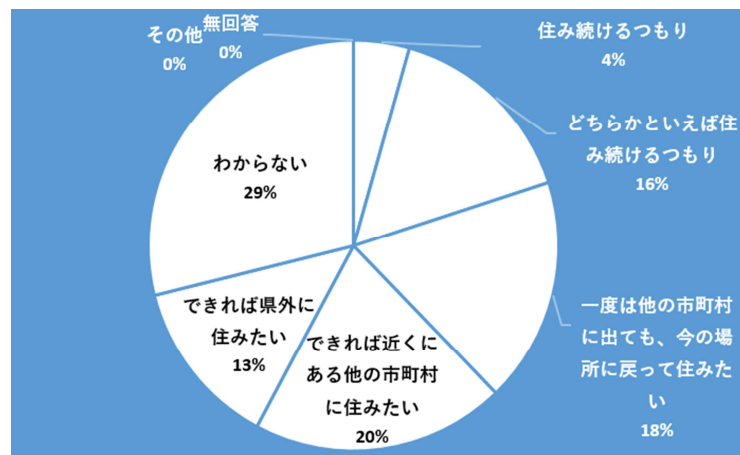
⑮ 転居したい理由

- ・ 転居したい理由の半数が、定年退職後の生活や生活環境の要因となっています。

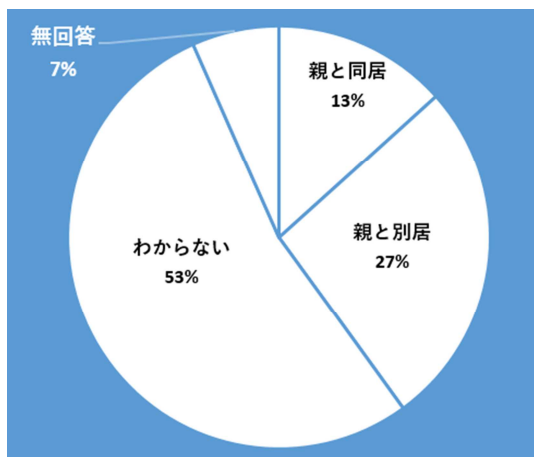


⑯ 10代へのアンケート あなたは、今後も長篠地域に住み続けたいと思いますか。

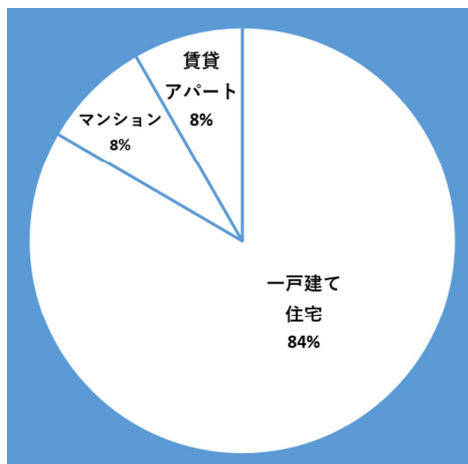
- ・「住み続けるつもり」、「どちらかといえば住み続けるつもり」が20%、「一度は他の市町村に出ても今の場所に戻って住みたい」が18%、「できれば近くにある他の市町村に住みたい」、「できれば県外に住みたい」が33%を占めています。



- ⑰ 10代へのアンケート 将来、あなたが長篠地域に住む場合、住居の希望はありますか。
- ・「わからない」が53%で、「親と別居」が27%を占めています。



- ⑱ 10代へのアンケート 親と別居を希望するとき、どのような住宅を希望しますか。
- ・「一戸建て住宅」が84%を占めています。



### 3 長篠地域土地所有者の開発意向

#### (1) 調査の目的

長篠地域に居住している世帯を対象に、土地、住宅所有に対する意向を把握するためアンケート調査を実施しました。

#### (2) アンケート調査の概要

行政区の協力を得て配布、回収しました。

\*調査実施期間 平成30年7月13日～7月27日まで

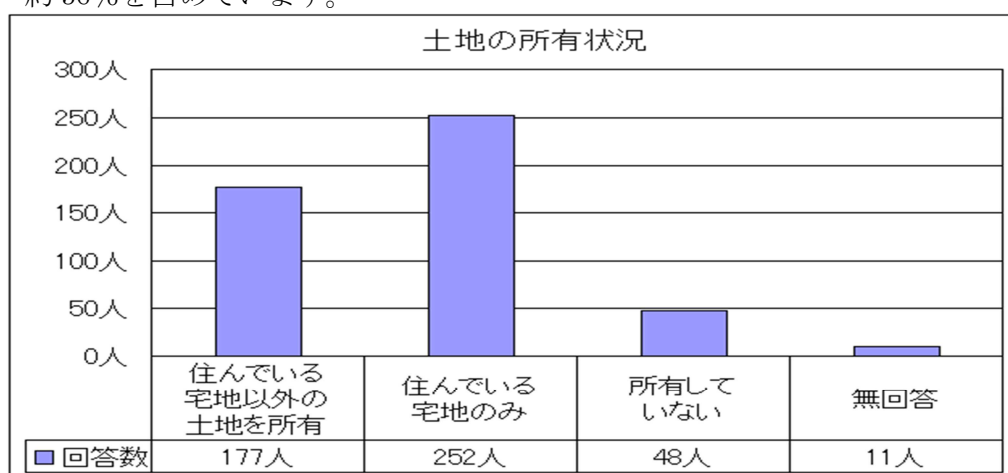
調査対象	長篠西	本郷	内金	計
配布数	195通	300通	208通	703通
回収数	132通	174通	180通	486通
回収率	67.7%	58.0%	86.5%	69.1%

#### (3) アンケート結果の概要(抜粋)

##### ① 土地所有者の状況

【あなたは、長篠地域に土地を所有されていますか。】

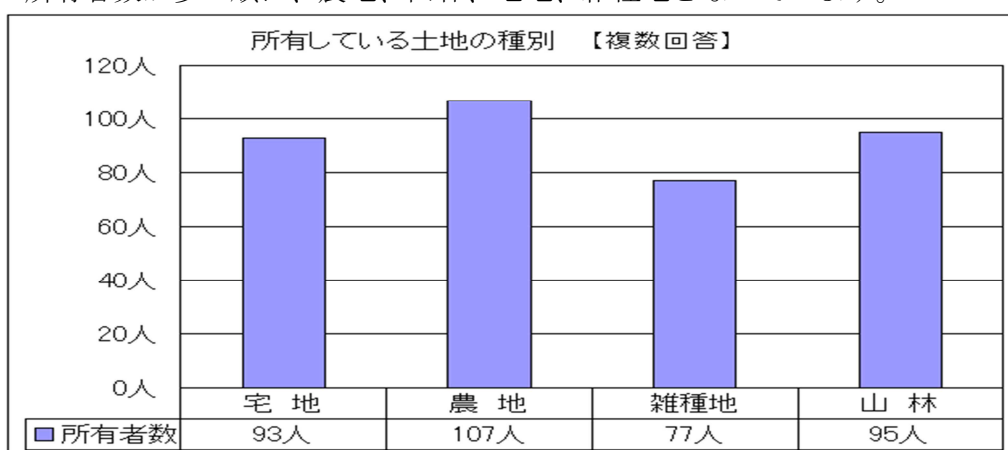
- ・土地の所有者状況としては、「現在住んでいる宅地のみ」が252人の約52%と全体の半数を占めており、次いで「住んでいる宅地以外の土地を所有している」が177人の約36%を占めています。



##### ② 所有している土地の種類

【住んでいる宅地以外の土地を所有していると回答した方に、持っている土地の種類をお聞きします。】

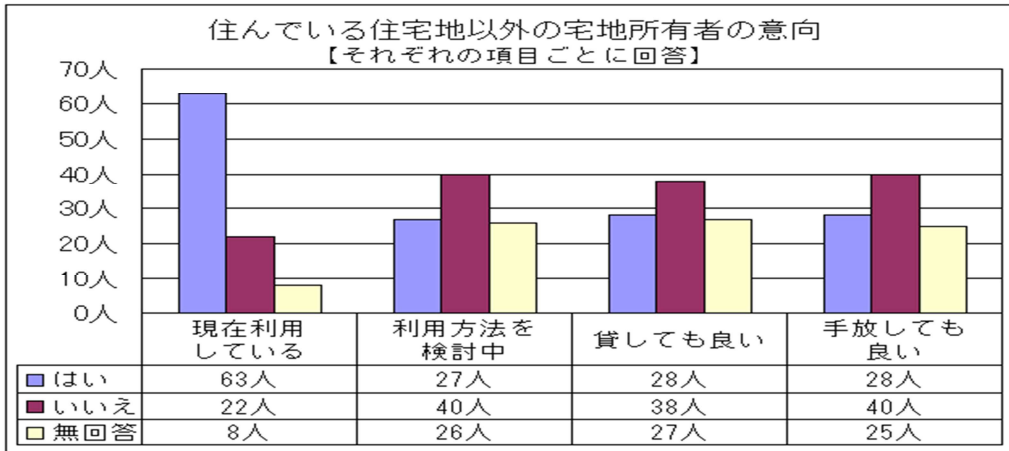
- ・所有者数が多い順に、農地、山林、宅地、雑種地となっています。



③ 宅地所有者の土地利用の意向

【所有している土地の種類が「宅地」を選択された方にお聞きします。】

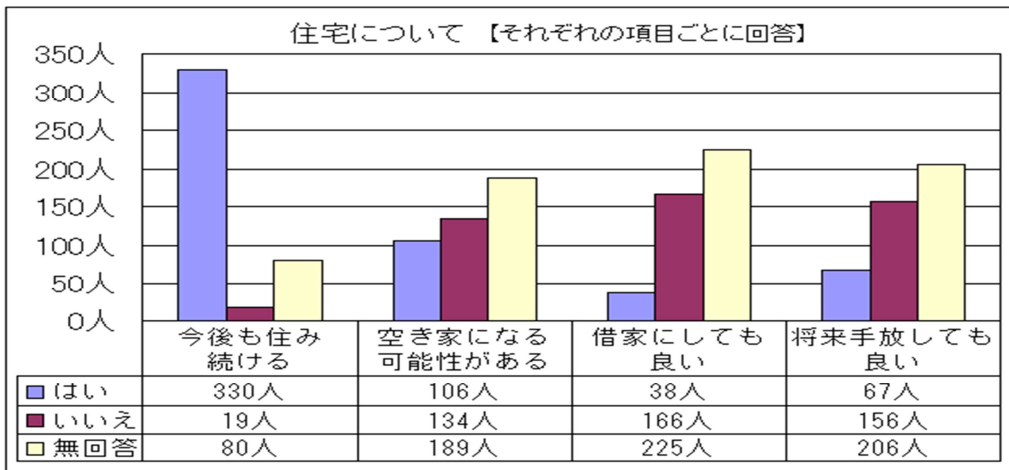
- ・住んでいる住宅地以外に「宅地」を所有していると回答いただいた方は93人で、その内の約40%37人が、「貸しても良い」、「手放しても良い」と回答されています。



④ 住宅に関する意向

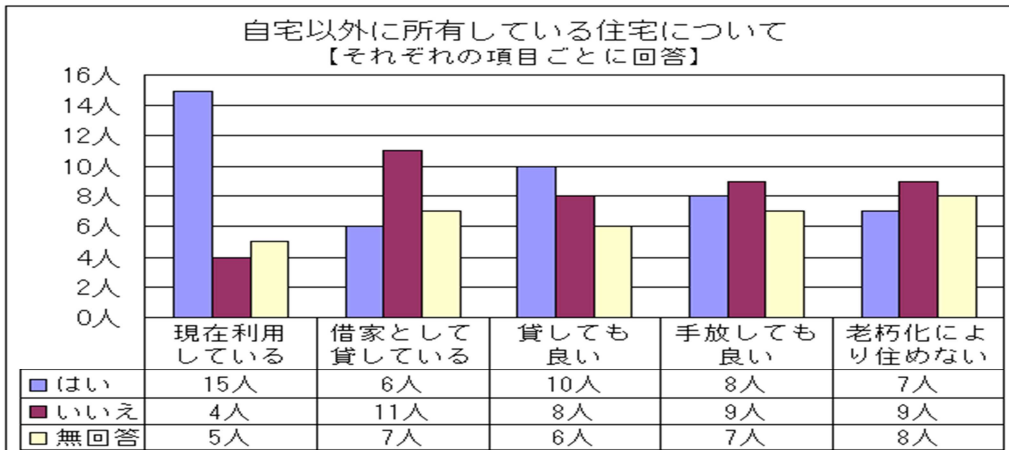
【現在住んでいる住宅について、将来（10～20年後）を想定してお答えください。】

- ・「今後も住み続ける」との回答が最も多いが、「将来的には空き家になる可能性がある」が、回答者の約25%を占めており、「借家にしても良い」や「手放しても良い」と回答された方は約21%となっています。



【現在住んでいる自宅以外に所有している住宅の活用方法についてお答えください。】

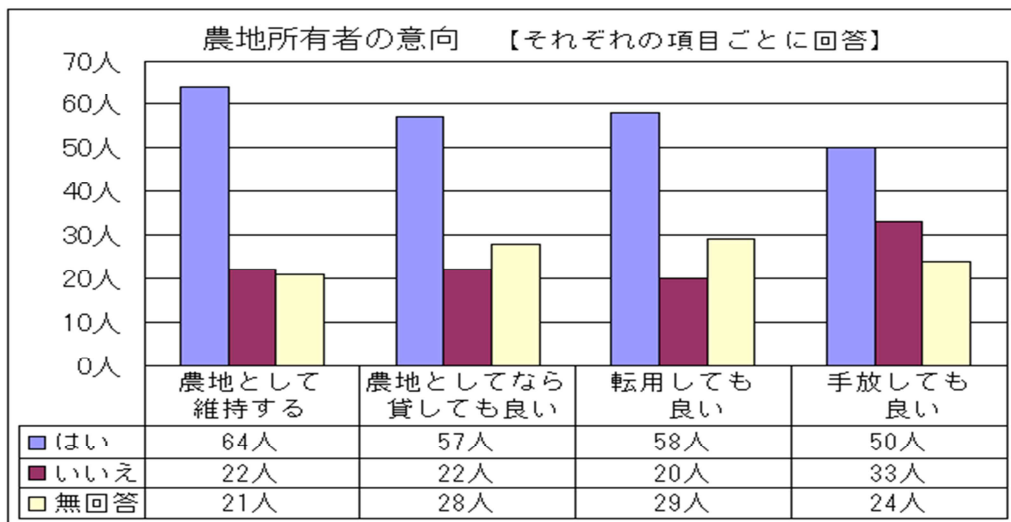
- ・全体の件数は少ないが、「貸しても良い」、「手放しても良い」と回答された方は、約46%となっています。



⑤ 農地に関する土地利用の意向

【所有している土地の種類が「農地」を選択された方にお聞きします。】

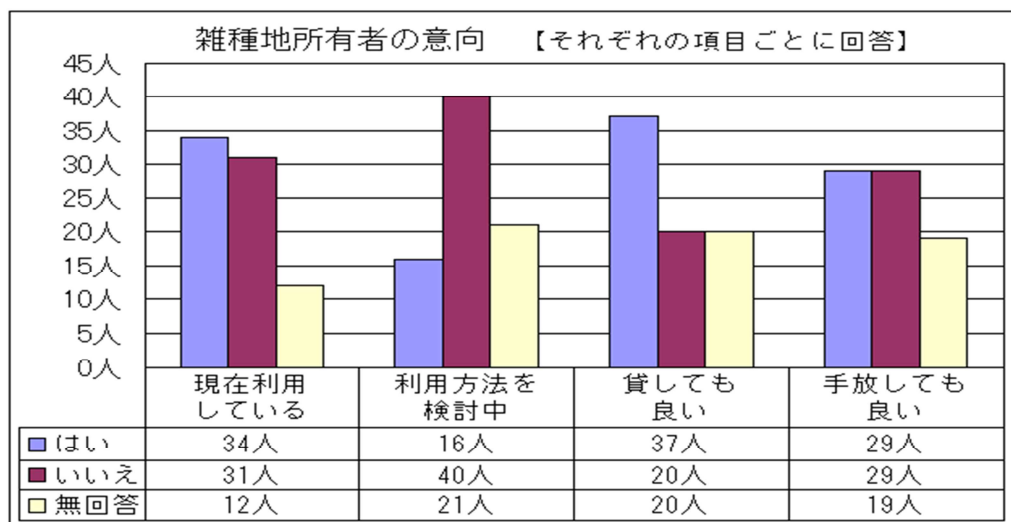
- ・農地所有者は107人で、その内の72人約67%の方が、「貸しても良い」、「手放しても良い」と考えています。



⑥ 雑種地に関する土地利用の意向

【所有している土地の種類が「雑種地」を選択された方にお聞きします。】

- ・雑種地所有者は77人で、その内の43人約56%が、「貸しても良い」、「手放しても良い」と考えています。





## 4 長篠地域の課題

長篠地域の課題については、国勢調査や経済センサス等の統計数値などで、市全体との比較や経年変化から考察を行うとともに、アンケート結果、策定委員会での協議内容等により出されたものです。

### (1) 人口・世帯減少と家族構成の変化

人口減少と併せ少子高齢化が進んでいる状況です。また、家族構成も核家族化が進んでおり、特に子育て世帯の占める割合が高くなっています。高齢者がいる世帯は、子ども世帯との別居等により、単独世帯や高齢者の夫婦のみ世帯が大幅に増加しています。

このような人口減少、少子高齢化、家族構成の変化に対応するため、その家族構成に適した住宅・居住環境を確保することが課題です。

### (2) 移住定住者の減少

長篠地域の定住意識は全体的には高いものの、10代の年齢層だけは「一度は市外に住みたい」を含めると、「他市町村に住みたい」と思っている人が半数以上となっています。その理由として、進学による転居や生活環境の変化を求めるものが主な要因と考えられます。

さらに、10代は長篠地域での住居希望について、親と別居で「一戸建て住宅」を希望する人が多いため、ニーズを踏まえた住宅地などの生活環境整備が必要です。

また、移住定住対策においては、空き家情報や就職情報の提供などの情報発信、他地域から移住しやすい環境整備が課題です。

### (3) 長篠地域の雇用創出

長篠地域の労働力人口が減少する一方、非労働力人口が増加しており、地域住民の労働力人口の減少は地域活性化の課題です。また、通勤人口の8割が市内で就業していますが、アンケート結果では長篠地域で就業する人は2割であり、就業環境の評価は低く、回答者の半数以上が企業誘致を希望しています。こうしたことから、長篠地域での雇用創出のため、開通した新城ICを活用した企業誘致を進めるには企業用地の整備が課題です。

### (4) 食料品等を購入できる環境の整備

アンケート結果では、長篠地域住民は生鮮食料品等を購入できる環境を求めており、特に支所周辺を希望する人が多いことから、生鮮食料品等の購入できる環境整備が課題です。

### (5) 公共交通体系の整備

アンケート結果では、公共交通に対する評価が低いことから、公共交通路線間の接続を強化し、高齢者など、車を利用しない交通弱者の利便性の向上を図っていくことが課題です。

### (6) 住環境の保全・整備

人口減少、少子高齢化が進む中、高齢者世帯や不在地主の増加により、管理されない空き家、空き地が増え、住環境の悪化につながるものが課題です。

### (7) 生活道路の整備

長篠地域は、国道151号、257号が通過するなど幹線道路は整備されていますが、住民が利用する生活道路においては、すれ違いも困難な狭隘な道路がまだ多くあり、一部の路線では朝夕の通勤時における渋滞が発生するなど一般生活道路の整備が課題です。なお、企業誘致に伴う道路整備について、別途検討する必要があります。

#### (8) 自然・歴史文化資源の保全や活用

長篠地域には、豊川や宇連川といった河川や天竜奥三河国定公園など豊かな自然環境や歴史的に貴重な長篠城跡があり、その周辺にある史跡を含めた環境を保全し、次世代に引き継ぐことが必要です。

長篠城跡を地域の歴史資源の核として位置付け、子どもをはじめとする住民が、歴史や自然に触れ、愛郷心を育むとともに、誇れる地域資源として活用していくことが課題です。

#### (9) 庁舎等

支所庁舎、旧総合庁舎、新城市開発センターは建設後 40 年以上が経過しています。平成 13 年度に支所庁舎は耐震工事を行いました。旧総合庁舎、新城市開発センターについては行っておらず、各施設とも設備の老朽化が進んでおり、建て替えが必要です。

また、支所前の駐車台数にも限りがあり、混雑時には国道 151 号を挟んだ北側の第 1 駐車場を使用する等、来庁者にとって不便な状況で、交通量の多い国道を横断するため交通安全面においても課題があります。